

平成 29 年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	産業水道委員会			
参加委員	小坂井二郎 安藤友博	山田英喜 南波清吾	土屋勝浩 渡辺正博	金沢広美

委員長、副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

長野県には、企業から工場等の立地希望情報が寄せられるが、昨年度の件数は一昨年に比べほぼ倍増している。上田市では事業拡張の意向をもつ企業がある一方で、用地等の取得を希望する企業のほとんどが、造成済みの工業用地等を望んでいる現状がある。しかし、造成にあたっては将来のリスクも踏まえ段階的に進めていく必要がある。

栃木県野木町では、優先的に進める政策の一つとして「企業誘致の促進」を掲げ取り組んでいる。平成 29 年秋には造成中の野木第二工業団地の第 2 期予約公募を開始する。

上田市では、今後、箱置第二期工業団地造成事業を進めていくが、工業団地の造成など企業誘致を先進的に行っている野木町の取り組みについて視察を行った。

2 実施概要

実施日時	視察先	栃木県野木町
平成 29 年 7 月 11 日 10 時 15 分 ~ 11 時 45 分	担当部局	総合政策部 未来開発課
視察事業名	企業誘致について	
	<p>1 視察先の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積：30.26 平方キロメートル（山手線内側の面積の半分弱） ・人口：25,713 人（平成 29 年 6 月末日現在） <p>2 視察先の特徴</p> <p>埼玉県を含む関東北部のほぼ中央に位置する県内で最も面積の小さな端の町で、他県へのアクセスが容易な地域である。</p> <p>東京までは 67 キロメートルの距離にあり、JR を利用した場合、大宮までは 46 分、上野までは 73 分と交通の便が非常に良い。このため、都心方面への通勤・通学が多く、ベッドタウン的要素が強いという特徴がある地域である。昼間の人口流出率は 37.43% で、県内 1 位である。</p> <p>3 視察事項について</p> <p>(1) 野木町は工場誘致を積極的に推進しており、町南部には、野木工業団地（主な操業企業は、株式会社不二家野木工場、ゼブラ株式会社、日信工業株式会社など。）町東部においては、野木東工</p>	

	<p>業団地（主な操業企業は、栗田工業株式会社、日東工業株式会社など。）が形成されている。また、国内大手のトラックメーカーである日野自動車株式会社が平成 24 年から野木町に隣接する茨城県古河市において一部操業を開始し、平成 28 年には主力の車両工場を全面移転した。これにより、野木町では新たな工業団地の建設、企業誘致活動を積極的に実施しており、関連会社等の進出による製造業関連の下請け受注増、人口流入に期待している。</p> <p>(2) 野木町の企業誘致策として、「野木町企業誘致推進会議」の設置がある。これは、野木町への積極的な企業誘致を促進し、産業の振興及び雇用機会の拡大を図るためであり、次の項目について推進会議を行ってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業誘致の方針に関すること。 企業誘致に関する情報の収集に関すること。 企業誘致を促進するために必要な調査に関すること。 企業訪問等の誘致活動に関すること。 その他企業誘致の推進に関すること。 <p>(3) 「野木町企業誘致条例」が平成 18 年に施行しているが、条例の目的は「企業誘致を促進するため必要な奨励措置を講じ、産業の振興と雇用機会の拡大を図ること」である。</p> <p>また、野木町における優遇措置に加え、栃木県における優遇措置として「企業立地・集積促進補助金」、「産業定着集積促進支援補助金」等がある。</p>
<p>考 察</p> <p>(まとめ:市政に活かせると思われる事項等)</p>	<p>野木第二工業団地は、平成 30 年度に完成予定であるが、平成 32 年度には国道 4 号バイパスへの道路が完成予定であり、工業団地までのさらなる時間短縮が期待されている。</p> <p>上田市では、箱置第二期工業団地造成事業を進めるにあたり、県道芦田大屋線または国道 152 号へのアクセスも並行して考えていくべきだと思う。</p> <p>野木町では、「市街化区域内の工場等について都市計画税を課税しない」、「企業誘致奨励金」といった企業立地優遇制度を設けている。このうち、「企業誘致奨励金」は、地域、対象、交付要件等を満たした場合、奨励金を交付する制度である。</p> <p>一例として、「施設設置奨励金」は、対象施設の事業開始日後において新たに固定資産税が課されることとなる年度から 3 年間の各年度の固定資産税相当額を交付するものである。</p> <p>「用地取得奨励金」は、対象施設の用に供する土地取得の日から 3 年以内に操業を開始した場合、用地取得額の 15% を交付するものである。</p> <p>「雇用促進奨励金」は、対象施設の事業開始に必要な常時雇用従業員のうち、新規雇用従業員または転属従業員を採用した場合に交付するものである。</p> <p>上記のような企業立地優遇制度を設けるなど、企業誘致の促進を野木町全体で取り組むことにより、企業誘致がスムーズに進み、人</p>

口減少に対して一定の歯止めをかける効果があると考えられる。上田市も人口減少などの対策の一つとして、野木町と同じような企業立地優遇制度等の上田市独自の条例を考えていくべきではないか。

野木町は、生産年齢人口比率が 62.5%であり、栃木県の平均よりも高い。これは、昭和 30 年代から工業団地の造成に着手し、長期にわたる企業誘致の取り組みが効果としてあらわれていると考えられる。また、企業誘致が昼間の流出人口率を抑え、移住定住につながっている。



野木町役場前にて

視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと

平成 29 年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	産業水道委員会			
参加委員	小坂井二郎 安藤友博	山田英喜 南波清吾	土屋勝浩 渡辺正博	金沢広美

委員長、副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

上田市の企業に対する相談体制に比べ「岡崎ビジネスサポートセンター Oka-Biz」の活動は、地元の企業者や起業家への支援について新しい感覚で対応しているのではないかと。

また、「全体的に若いスタッフが活動し、相談しやすい体制に思えるが、様々な相談に対してどのようにこたえているか」、「成功事例をみると、相談中の会話の中から新しいヒントを見出しているが、どのような感覚で聞いているのか」、「SNSを使って毎日のように活動状況を発信しているが、どのような視点で発信しているのか」など、先進的な活動状況を研究するため、視察を行った。

2 実施概要

実施日時	視察先	愛知県岡崎市
平成 29 年 7 月 12 日 9 時 30 分 ~ 11 時 00 分	担当部局	経済振興部 商工労政課
視察事業名	岡崎ビジネスサポートセンター Oka-Biz について	
報告内容	<p>1 視察先の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積：387.20 平方キロメートル (552.04 平方キロメートル) ・人口：385,807 人 (158,814 人) <p>平成 29 年 7 月 1 日現在、() 内は上田市</p> <p>2 視察先の特徴</p> <p>岡崎市は濃尾平野の西部に位置し、矢作川と乙川に挟まれた景観が特徴で、古代から栄えた古墳群があり、近世は東海道の要所として栄えた。岡崎城は徳川家康の居城として整備され、観光客も多い。</p> <p>市の人口は 385,807 人 (平成 29 年 7 月 1 日現在) で、愛知県内では、豊田市、豊橋市とともに中核市に指定されている。</p> <p>近年は産業振興に力を入れており、自動車関連を中心に産業立地が進み、東部工業団地も第 1 期分が完売し、新たに愛知県が第 2 期造成工事を決定した。存続が心配されていた三菱自動車岡崎工場も存続が決定し、トヨタ自動車のテストコース構想も現実味を帯びてきた地域である。</p>	

3 視察事項について

(1) 「岡崎ビジネスサポートセンター Oka-Biz」の活動について

平成 25 年 10 月に、岡崎市と岡崎商工会議所が開設した「岡崎ビジネスサポートセンター Oka-Biz」は 4 年目を迎えたが、開設 3 年目には 2,206 件の相談件数となり、当初目標である年間 600 件の相談件数を大きく上回っている。成果も上がっており、開設してから 3 年間で他の行政機関からの視察は 111 件にのぼっている。

中小企業の悩みは、売り上げが伸びない、売り上げを伸ばしたい、新しい商品を開発したい、会社を大きくしたいなど多岐に渡っている。

今の時代に合わせた起業等の相談も多く、ワンストップ方式やリピートもいとわず相談に乗ることから、信頼感を高めている。開設 3 年目は、相談件数の 88% がリピート利用で、新規相談者の 79% が口コミからの相談申し込みであり、ニーズに応える「役立つ相談所」と評価されていると思われる。さらに、創業相談の 50% 以上は女性であり、副センター長や相談員に女性を多く起用していることも、相談しやすいと判断されていると思われる。相談員は 12 人で、中小企業診断士の資格を持った職員のほか、銀行員、IT やデザインの専門家など多彩な経験をアドバイスに活かしている。

また、最近は「ネットビジネス」への関心が高く、比較的安価で創業出来ることもあり、相談件数が多い。「岡崎ビジネスサポートセンター Oka-Biz」では、ヤフー株式会社と連携して「ネットショップ道場」と題した無料セミナーも行っている。

(2) 成果事例について

売り上げが伸び悩み、先が見通せない化学染料の卸売商社の相談にのり、商品の利用されているシーンを明確化する中で、花を好きな色に染められる「夏休みの自由研究キット」を開発したところ、売価 100 グラムあたり 1,500 円の薬剤が、3g あたり 1,600 円で売れるようになった。大手教材出版社の教材として採用されたほか、母の日のプレゼント用に青いカーネーションをつくることのできる商品としても採用され、売上増につながった。

リーマンショック以後、売り上げが低迷していた鋼材切断を専門に行う会社の相談にのり、「気づいていない真のセールスポイント」は何かについて検討を行った。超短期(半日)で納品できるセールスポイントをいかし、「超特急サービス鋼材切断 119 番」とのキャッチフレーズで宣伝した所、売り上げが回復した。

大手の安価な製品に押されながらも、昔ながらの製法にこだわって石鹼を製造する会社の相談にのり、ターゲットを「出産

	<p>前後の母親」に絞って、「赤ちゃん用の無添加せっけん」を開発。情報発信やベビー用品を取り扱う百貨店やショップなどへの販路拡大を提案した。その後、ベビー誌に取り上げられるなど、売り上げ増が実現した。</p>
<p>考 察 (まとめ:市政に活かせると思われる事項等)</p>	<p>上田市では商工会議所と連携して、様々な支援を行っているが、PR不足のためか、あまり成果は聞かない。また、どちらかと言うと、「就労支援」が中心で「創業支援」まではしていないのではないかと感じる。</p> <p>長野県でも、中小企業の社長が創業支援アドバイザーとなって、新規開業者の指導に当たる制度もあったが、最近あまり聞かない。宣伝は大切であり、今の時代に合った宣伝の仕方をおおいに参考になった。</p> <p>「岡崎ビジネスサポートセンター Oka-Biz」ではスタッフが若く、相談しやすい環境がある。また、相談をする中で「本人が気づいていないわが社の魅力」を聞きだし、次のステップに結び付けるところは、感性もさることながら「データベースの容量」も凄いと感じた。</p> <p>自分たちも日頃からアンテナを高くし、新しい情報を取り入れるとともに、様々な業種の先駆者とも人間関係を構築しておかないといけない事を痛感した。</p> <p>これからは、誰でも経営者になれる時代なので、「何が必要とされているか」をいつも考えるようにする必要があると感じた。</p> <div data-bbox="544 1211 1302 1641" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">岡崎市役所での視察の様子</p>

視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと

平成 29 年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	産業水道委員会			
参加委員	小坂井二郎 安藤友博	山田英喜 南波清吾	土屋勝浩 渡辺正博	金沢広美

委員長、副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

蚕糸業からものづくりとして発展してきた上田市にとって製造業は欠かすことのできない産業であるが、合併以降、製造業は県内 19 市の中で伸びなやんでいる状況である。今回の視察では、石川県金沢市が策定したものづくりに対する戦略を学ぶことで、産業水道委員会として製造業等に対する認識を深めるとともに、方向性も提言していけるよう視察した。

2 実施概要

実施日時	視察先	石川県金沢市
平成 29 年 7 月 13 日 9 時 30 分 ~ 11 時 00 分	担当部局	経済局 ものづくり産業支援課
視察事業名	金沢市ものづくり戦略 2015 について	
報告内容	<p>1 視察先の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積：468.64 平方キロメートル (552.04 平方キロメートル) ・人口：454,406 人 (158,814 人) <p>平成 29 年 7 月 1 日現在、() 内は上田市</p> <p>2 視察先の特徴</p> <p>加賀藩前田家の城下町として栄え、加賀友禅や金箔、九谷焼などの伝統工芸や能楽、加賀万歳などの伝統芸能を受け継ぐ。戦災や大災害を免れたため、重要伝統的建造物群保存地区である東山や主計町の茶屋街、寺院群など藩政時代の美しいまちなみを残している。手仕事の技を生かしたものづくり産業も特色であることや、大学など高等教育機関が周辺立地する環状大学都市である。</p> <p>3 視察事項について</p> <p>(1) 金沢市ものづくり戦略 2015 の概要</p> <p>ア 策定の目的</p> <p>平成 26 年度で計画期間が満了した「金沢市ものづくり戦略」に続くものとして、地域経済の担い手である中小企業を中心としたものづくり産業を振興するため、新たな将来像とその実現に向けた計画を策定するものである。この戦略を推進すること</p>	

により、金沢市の都市像である「世界の交流拠点都市金沢」を実現し、地域経済の活性化を図る。

イ 計画期間

平成 27 年度から平成 36 年度までの 10 年間とし、社会経済情勢の変化等に対応するため、策定後 5 年を目途に見直しを実施する。

ウ 対象とする産業

製造業、情報通信・映像・デザイン産業。

エ 将来像

独創性と多様性に富んだものづくり産業の振興による創造産業都市・金沢の実現 ~人・モノ・情報の集積・交流による地域経済の活性化を目指して~

オ 基本方針と施策の方向性

次のとおり 5 つの基本方針と基本方針に沿った施策の方向性を掲げ、具体的な施策を展開している。

	基本方針	施策の方向性
1	次代を担う産業人材の確保・育成	担い手の発掘・育成・集積 小中学生からものづくりに触れる機会の確保 技能継承及び後継者養成に向けた支援強化
2	事業基盤の強化と企業立地の促進	中小企業の経営力強化 多様な連携の促進と工業団地の活性化 企業立地の促進
3	新産業の創出と起業支援の強化	ICT を活用した新産業の創出 ICT 分野等における地場産業と先端技術の融合 創造的活動拠点の機能強化
4	新製品・新技術の開発と成長分野への展開支援	新製品・新技術開発の促進 環境、福祉、医療等の成長分野への展開支援 豊富な食材や企業・大学の技術を活かした魅力ある商品の開発

	基本方針	施策の方向性
5	販路開拓と海外展開支援	ブランド力を活かした販路 拡大 国内外における見本市出展 の促進 海外・外国人向け情報発信の 強化

(2) 現在行っている取り組み

将来像の実現に向け、金沢市だけでなく企業・関係機関が、それぞれの責務を果たしながら相互に連携することが必要である。このため、企業を取り巻く環境やニーズの適格な把握に加え、国・県や中小企業基盤整備機構などの支援機関、金融機関等の連携を支援している。また、産学連携による新製品開発の促進や学校や地域とも連携し、ものづくりの大切さについて理解と関心を深め、新たな価値の創造に挑戦する機運を醸成している。

昨年度には8名のクリエイターの方が金沢市に移住し、業務を開始した。長年にわたり同業界に注目して様々な研修やイベントを開催してきたことにより、口コミや評判で移住につながったことが大きな要因という。また、リーズナブルに借りることができるレンタルオフィス「ITビジネスプラザ武蔵」では、立地も好条件なことから利用者も多い。インターネット環境はもちろん、プロジェクターやスクリーンの無料貸し出しを行い、クリエイターの方々にも人気だという。また、金沢市のICT産業の次代を担い、未来を切り開く能力を備える優れた人材の確保・育成のために、中高生対象のプログラムキャンプを開催し、プログラミングのスキルを養う取り組みも行っている。



金沢市役所での視察の様子

<p>考 察</p> <p>(まとめ:市政に活かせると思われる事項等)</p>	<p>「金沢市ものづくり戦略 2015」では5つの基本方針を定め、それぞれの基本方針に対して3つの施策の方向性と8つの主な具体的施策を定めた幅広い取り組みであり、規模も大きい。しかし、項目によっては上田市でも参考になる施策も多く、導入を検討する意義はあると感じた。特に、自治体と国・県、また、金融機関や教育機関、業界団体との連携を強め、本当に現場の必要としている施策を見定め、効果的な施策を提言していくことが求められているのではないかと感じた。</p> <p>今回3日間の行政視察では、1日目は栃木県野木町における工業団地の造成事業を含めた「企業誘致の取り組み」、2日目は愛知県岡崎市による「岡崎ビジネスサポートセンターOk-Bizの取り組み」、3日目は「金沢市ものづくり戦略 2015 について」と、産業の活性化に向けた取り組みに関するテーマについて行ったため、それぞれの委員が認識を深め見聞を広めることができ、これからの議会活動の中で活用していきたい。</p>
---	--